

小説

はやし
ふみこ
林 芙美子



下関市
(1903～1951)

提供：新宿歴史博物館

林芙美子（本名、フミコ）は、関門の地に生まれ、行商の養父・母に伴われて流れ歩く不幸な幼少時代を過ごした。成人して上京した後も、女中、売り子、女給、そして男達と人生遍歴を体験。そうした中から身につけた強靱な生命力と庶民性によって、出世作「放浪記」にみられる明るさと詩情をたたえた独自の文学世界を創出。戦時中は報道班員として意欲的に活動、戦後も旺盛に執筆を続け、林文学の集大成と称される「浮雲」を完成の後、新境地「めし」の連載半ばにして急逝。ひたむきに生きた四十七年余りの生涯であった。

（清永唯夫）

【主な著作】

『放浪記』（改造社、昭和5年）

『晚菊』（河出書房、昭和26年）

『林芙美子全集』全16巻（文泉堂出版、昭和52年）